

70 年 を 超 え て

創立70年に思うこと

一般社団法人 岐阜県臨床検査技師会

前会長 兼 子 徹

私が会長を引き受けるにあたっては、様々な困難があるように思えました。中でも特に困難に思われたことは、私の勤務先（澤田病院）は土曜日でも通常勤務があり、会長業務の出張で休暇が取れるだろうかということでした。同僚に相談すると、

「仕事のことは私たちに任せておけ。ていうか帰ってきたら倍働け。」

と、背中を押され、浅野敦さん（現在の会長）にも、

「ほかに適任はいない、引き受けるしかないよ」

と、消去法に則った感じで背中を突かれ、まあ、困難な理由ばかり言っても始まらない、何とかなるか！ と思い会長を引き受けることにしましたが、学会・研修会・各種式典・会議と、やっぱり会長は出張が多かった。「有給休暇に残はない！」という懐かしいフレーズ（ちょっと違う？）が、あと少しで現実になりかけました。

とはいえ、せっかく出張に行くなら、特に、年に一度の日臨技全国幹事会議は1月に東京の日臨技会館で行われ、東京に出張なんていまだかつてなかったことなので、日臨技会館の近くに何か変わったものはないか、あれば見てみようと思ってみたところ、「大森貝塚」という遺跡があるようでした（なぜかこういう地味な感じのところが好きなんですネ）。

日臨技会館は東京都大田区、大森駅の近くにあります。日臨技会館に行っても海を感じることはないですが、近くには大森海岸という駅もあり、かつては台地の近くまで海岸が迫っている、海と台地の間に狭い平地があり、台地のキワを鉄道がとおっているという地形だったようです。



日臨技会館

アメリカ人動物学者のエドワード・S・モース博士は、1877（明治10）年、横浜港に上陸し、できて間がない鉄道で東京に向かう途中、列車の中から台地の方を見ていたところ、貝殻の積み重ねを見つけ、

「That's Shell Mounds！」

と叫んだ、か、どうかは分かりませんが、明治政府から許可をもらい発掘したところ、貝殻の他

に獣骨や土器が出て、縄文時代の遺跡であることが分かり、大森貝塚は日本の考古学発祥の地、モース博士は日本の考古学の父とされています。

同じような時期に、あのシーボルトの次男ハインリヒ（フォン・シーボルト）もこの貝塚を発見しており、どっちが先に発見した争いがあったようで（老練のモース博士に軍配が上がりました）、一説では考古学という学問が日本人に知られるきっかけとなったともいわれているようです。日本語で「考古学」という言葉を始めて使用したのはハインリヒの方で、こちらは日本の考古学の命名者ということになるようです。

大森貝塚の跡地は、現在、大森貝塚遺跡庭園となっており、モース博士の銅像があります。私が訪れたのはよく晴れた冬の午後、ママ友と思しき女性3名と数名の子供たちが遊んでいるだけの静かな公園でした。時折、いや頻繁に電車が公園の脇を通過し、モース博士の乗った自動車もここを通過していったのか、いたるところに歴史はあるものだと、しばし感慨にふけたのであります（しかし、大森貝塚は品川区の大井にあるのでした。不思議？）



大森貝塚碑 上にあるのは縄文土器のオブジェ



モース博士

歴史といえば、忘れるところでした、危ないあぶない。岐阜県臨床検査技師会創立70周年、おめでとうございます。

創立は1950（昭和25）年、山城元会長（私の前の前の会長）が60周年記念誌に、「混乱・激変する社会情勢の中、奔走した創世期」と寄稿されましたが、沖縄戦や原子爆弾投下があった太平洋戦争終結

（1945（昭和20）年）からわずか5年後のことと思えば、草創期の皆様の奮闘はいかばかりかと敬服するばかりです。

ちなみに、私は1960（昭和35）年に生まれ（この時岐臨技は10周年）、1981（昭和56）年に国際医学総合技術学院を卒業（M科6回生）、「思想堅固ならず、成績微妙」な学生だったため国家試験には際どく合格し、なんとか臨床検査技師となり（この時岐臨技31周年）、それから39年！

60歳！（今一つ実感がない）

私が会長に就いている間で、印象に残っているのは、1970（昭和45）年以來の業務の追加という触れ込みで始まった厚生労働省指定の「検体採取等に関する講習会」の実務責任者をしたことです（なんと4回も・・・）。2日間にわたる遅刻・早退厳禁のなかなかハードな講習会で、異